

長野市芸術館

第3期 指定管理事業方針
2024-2028



ここから
つながる

文化芸術で
さらに心豊かで
幸せなまちに

Theme & Visions

テーマと構想

テーマ・ロゴ



ここから つながる

文化芸術で
さらに心豊かで
幸せなまちに

テーマに込めた思い

長野市芸術館が考える文化芸術とは、その人の内面にあるものを“表”に出し、他の人に向けて“現”すもの——合わせて“表現”です。そして、その“表現”が人で最もはっきりと見える場所が“顔”であり、表現した人の“顔”は、それを受け取った人の“顔”にも伝わっていくものだと考えています。

私たちは、文化芸術には人の心を豊かにする力があると信じています。そして、文化芸術をとおしたつながりが、心豊かで幸せなまちづくりにつながると信じています。文化芸術に触れた感動や驚きが“顔”に現れ、同じ場所にいる誰かと分かち合うことで、いくつもの“顔”が輝く——こんなふうに長野市芸術館が「顔が集

まる・顔がつながる・顔が輝く劇場」となり、長野市がさらに「心豊かで幸せなまち」となることを目指し、「ここから つながる」をテーマとして掲げました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、“顔”が見えない期間が長く続きました。そんな今だからこそ、長野市芸術館は文化芸術の交流拠点として、市民みんなの顔が集まり、つながり、輝く場所でありたいと考えています。

ぜひ、どなたでもお越しください。私たちと一緒に、ここから、つながりませんか？

ロゴに込めた思い

長野市の形をモチーフに、「構想」にも挙げられている「5つの“顔”」を象徴する5色のラインをつなげ、長野市内の人々がより良い未来に向かって互いに関わり合っていく様子を表現しました。長野市芸術館のロゴの赤色を起点に明るく広がっていく色あ

いで、この事業の未来が明るくあたたかく広がっていくことも表現しています。長野市内の人々が関わり合い、心地よい響きをつくりながら、一つにつながっていくよう願いを込めました。

構想

顔が集まる・顔がつながる・顔が輝く劇場

「みんなの“顔”が集う場所」として、それぞれとよりそい、つながり、皆の笑顔が輝く事業を実施します。



目標



※ つながりの形成とは、普段ではできないような体験を通してヒト・まち・社会とつながることを指します。
※ ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念です。

目次

| | | | | | |
|-----------------------------------|----|--------------------------------|----|---------------------------|----|
| Theme & Visions テーマと構想 | 01 | New Projects 新たな取組み | 04 | Management Policy 事業方針 | 06 |
| Management Strategies 達成に向けた戦略 | 03 | Management System Chart 体系図 | 05 | Messages 代表メッセージ | 16 |

Management Strategies

達成に向けた戦略

前回の第2期指定管理(2019～2023年)では、「文化芸術を通じた活動の進化と深化～ともに成長」というテーマのもと、プロデューサー制により同一アーティストが継続するオリジナル公演事業や、市民とともに創り上げる市民参加型事業、長野市芸術館ジュニア合唱団をはじめとする育成事業を中心に実施しました。令和元年東日本台風災害や新型コロナウイルス感染拡大など厳しい経営環境ではありましたが、感染防止対策の徹底や市民の鑑賞機会の継続に努めたことで多くの方にご来場いただき、稼働率の向上も達成しました。

一方、今回の第3期指定管理では、長野市民のウェルビーイング向上を目指し、「文化芸術でさらに心豊かで幸せなまちに～ここから つながる～」という新テーマのもと、さらに多様な事業に取り組みます。具体的には、自己肯定感・幸福感・協働性・つながり・自己実現・多様性への理解といった要素を取り入れ、次の4つの事業を柱に展開します。

4つの柱

I. ホールの特性や市民ニーズに応じた鑑賞事業

当館は、響きの良さなど特性の異なる3つのホールを有しており、開館以降、館独自の企画・制作によるオリジナル公演を多く実施しています。各ホールの特性を活かし、クラシック音楽公演やレクチャーを中心とした事業を展開しつつも、市民ニーズに応じた館独自の様々な公演を実施することにより、多様な価値観をもつ市民が集い楽しめるよう取り組みます。

II. 市民自らが主役となる参加型事業

あらゆる市民が参加でき、自らが主役となって創り上げる公演やワークショップといった参加型事業に引き続き取り組みます。音楽・演劇・美術など多様な分野において、参加者の技術向上はもとより、高齢者の外出機会の創出、参加者同士が感動を共有できる場の提供、新たな生きがいづくりなどの役割を担います。

III. 質の高いサービスの貸館事業

貸館事業における、利用者に寄り添うサービスの質の高さが、当館のこれまでの稼働率向上に寄与してきたものと思われまます。こうしたソフト面での良質なサービスは当館の強みとして継続しつつ、新たな割引やWeb予約システムといったハード面でのサービスも拡充し、更なる満足度および稼働率の向上に努めます。

IV. 劇場とまちがつながる事業

長野市(まち)の市民、企業・店舗とアーティストが長野市芸術館をハブとして交わり、新たなつながりを形成する「まち☆ハブ事業」に取り組みます。まちに賑わいを生み出すほか、長野市芸術館の認知度を高め、身近な存在としてさらにご理解・応援いただけるよう努めます。

以上4つの柱に加え、長野市の将来を担う子どもたちの未来を育むプロジェクト「KIDS Meets Arts プロジェクト」を新たに立ち上げ、重点的に取り組みます。

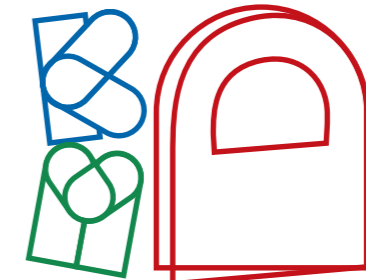
これらの文化芸術活動を通して、子どもから大人まで、すべての長野市民のウェルビーイング向上を目指します。

New Projects

新たな取り組み

「文化芸術が、長野市民のウェルビーイングの向上のためにできることってなんだろう」。長野市芸術館が辿り着いた答えは、「未来を育むこと」と「つながりをつくること」でした。そこで、新たな取り組みとして、未来を担う子どもたちが文化芸術に親しむきっかけをつくるプロジェクト「KIDS Meets Arts プロジェクト」と、文化芸術をきっかけとしたつながりをつくる「まち☆ハブ事業」を実施します。

● KIDS Meets Arts プロジェクト



KIDS Meets Arts

生涯にわたり文化芸術に親しむきっかけとして、子どもたちが良質な文化芸術と出合うきっかけをつくります。一流アーティストの演奏や演技の鑑賞、アーティストと一緒に作品をつくる体験をとおして、長野市の未来を担う子どもたちの心の豊かさを育み、多様性への理解を高めます。ロゴでは「K」「M」「A」の頭文字をモチーフとし、子どもたちが芸術に出合う扉へ向かっていく様子を表現しました。

ARTS ANGEL TICKET



KIDS Meets Arts プロジェクトの一環として、様々な理由で公演に来ることが難しい子どもたちやその家族に、主催公演の招待チケットを無償で提供。誰もが文化芸術に出合える機会をつくります。童話「青い鳥」から着想を得たロゴが目印です。チケット代を協賛企業からの協賛金でまかなうことで、芸術館が多くの企業と人々をつなぐ社会包摂的な役割も果たします。

● まち☆ハブ事業



長野市芸術館がハブとなり、長野市民、まち(企業・店舗)と、文化芸術の最前線にいるアーティストの新たなつながりをつくります。アーティストの素顔や人間性に触れることで文化芸術への新たなアプローチを実現し、そのつながりから生まれる新たな価値観で、「文化力あふれるまち 長野市」のさらなる賑わいづくりを目指します。ロゴでは、頭文字「ま」を道が交差する街の様子に見立て、つながりの起点となる「ハブ」を表現しています。

Management System Chart

体系図



Management Policy

事業方針

I. ホールの特性や市民ニーズに応じた鑑賞事業

市民に定着したシリーズ公演・継続公演事業

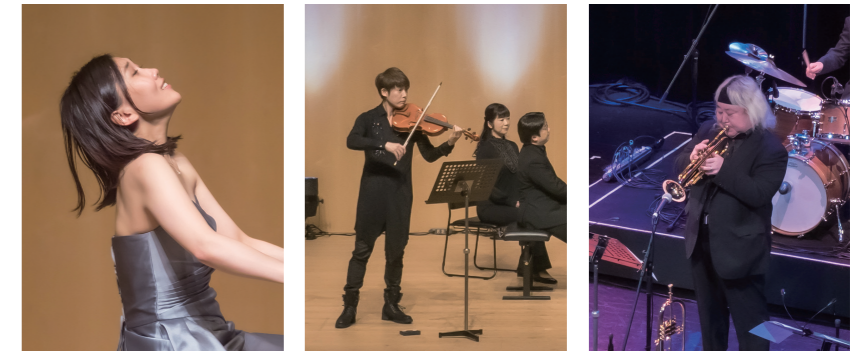
定着してきた各公演は、
内容を見直しつつ
継続して実施します

音の響きが良いメインホール、生音専用のリサイタルホール、可変型で多目的に使えるアクトスペースといった各ホールの特性を活かし、市民ニーズに沿って毎年実施している各公演については、安定した集客で定着が図られていることから、継続して実施します。

集客に工夫余地のある「金曜よるのクラシック・リサイタルシリーズ」は、開催時期を厳冬期から4月～6月頃の開催への変更等見直したうえで実施します。



事業の例



水曜ひるまのクラシック・リサイタルシリーズ

金曜よるのクラシック・リサイタルシリーズ

長野市芸術館ジャズ・フェスティバル



リヴァラン弦楽四重奏団

加藤昌則のぶっとび! クラシック

Everly コンサート

親子のためのクラシック・コンサート「音楽の絵本」スーリアンプラス

多様なジャンルの公演事業

単年公演として、市民ニーズに応じた館独自の多様な公演を実施します

時世や流行に合わせた多様な市民ニーズを把握し、それに応じた館独自の企画・制作による多様なジャンルの事業を実施します。

なお、決定にあたっては当館での貸館公演や、近隣ホールでの公演との兼ね合いを考慮します。



事業の例



復興 NAGANO! 音楽祭



billboard classics Premium Symphonic Concert



長野市芸術館落語祭



東京交響楽団 オケストラ入門コンサート (仮)

開館10周年を迎え、大型記念事業を実施します

開館10周年を迎える2026年度には、初の大型記念事業を実施します。事業費には、2021年より積み立てている「10周年事業積立金」を活用します。また、2026年度は第3期指定管理の3年目にあたり、第3期の成果及び第4期に向けた方針の参考にするため、シンクタンクやコンサルティングファームを用いた第3者による調査・評価を実施します。

事業の例



著名アーティストによる大型公演事業



オーケストラ公演事業



市民とアーティストが共演する参加型事業



子どもから大人まで参加できる体験型事業



観光地での特別ライブ



継続公演の拡大

訪問コンサートやホールでの無料公演事業

お届け芸術館はスキームを見直しつつ継続して実施します

市内外で活動するアーティストを中心に出演者のバリエーションを増やすなど活動の幅を広げ、より市民に喜ばれるよう取り組みます。開催場所については、これまでは市内公民館や特別支援学校に対象を限定してきましたが、病院や介護施設、美術館、レストランなど、市民へ鑑賞機会を提供できるよう対象を増やします。



事業の例



お届け芸術館

ランチタイム・ピアノ・コンサート、市役所ロビー・コンサートを継続して実施します

平日の昼間に実施する入場無料のコンサートとして、子育て家庭からお昼休み中の働き世代、高齢者まで幅広い年代層の来場を得ています。気軽に文化芸術に親しむ機会として、継続して実施します。

事業の例



ランチタイム・ピアノ・コンサート



市役所ロビー・コンサート

I. ホールの特性や市民ニーズに応じた鑑賞事業



KIDS Meets Arts プロジェクト

多くの子どもたちに文化芸術の素晴らしさを届ける事業を実施します

0歳から入場可能なコンサートや、子どもをターゲットにしたコンサート、子どものためのワークショップを拡大し、多くの子どもたちが鑑賞・参加する環境を整えます。文化芸術とおとして子どもたちの心の豊かさを育てることで、多様性への理解を生み、長野市の将来を担う子どもたちの未来を育みます。



学校訪問コンサートを継続して実施します

保育・幼稚園、小学校(低・中学年)や中学校を対象として、学校訪問コンサートを継続して実施します。



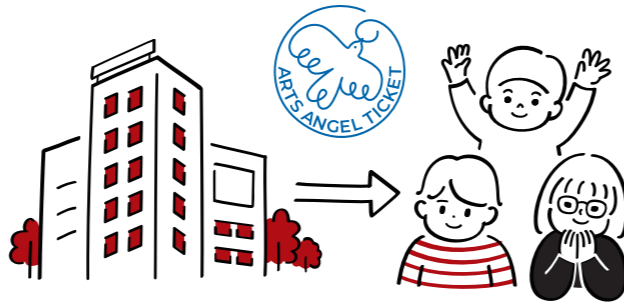
予定アーティスト

保育・幼稚園、小学校(低・中学年)：Everly など
中学校：NAGANO12 など

協賛金を活用し、子どもたちを招待するARTS ANGEL TICKETを実施します

様々な理由により公演に来ることが難しい家庭・子どもたちに対して、無償でチケットを提供し、主催公演へ招待します。そのチケット料金は、協賛金から充当することで、市内企業と市民をつなぐお手伝いを担います。令和6年度はひとり親家庭、生活困窮家庭及び児童養護施設を対象にチケットを提供します。

事業協力：長野市生活支援課、長野市子育て家庭福祉課、一般財団法人長野県児童福祉施設連盟



News

チケットセンターに子ども向けの本が仲間入り！
子ども優先の机&椅子もあるので、遊びに来てね！
「長野市芸術館チケットセンター」は、長野市役所第一庁舎1階にあります。

II. 市民自らが主役となる参加型事業

市民が創り上げる公演事業

市民とアーティストが共創する事業を継続して実施します

市民が一流のアーティストや指導者からの指導を受け、一緒にステージに立ち、感動を共有し新たなつながりを形成することで、自ら文化芸術に親しむ人口の増を目指します。



市民による発表の場の提供を継続して実施します

練習室を利用している団体・個人や、市内で活動する若手作家に対し、成果や作品を披露する場を提供します。



事業の例



市民300人でつくる「カルミナ・プラナ」



長野市芸術館プラス・フェスティバル「スーパー・ウインド・オーケストラ」



市民企画公演



西村まさ彦プロジェクトシニア演劇アカデミー



長野市芸術館オープンハウス



市内作家によるアート・グループ展



長野市芸術館ジュニア合唱団

II. 市民自らが主役となる参加型事業

あらゆる市民が参加できるワークショップ事業

子どもから大人まで楽しめる ワークショップを実施します

子どもを対象に実施してきた美術創作ワークショップを継続・拡大するとともに、大人も楽しめるようなワークショップとして「パルーションショー＆ワークショップ」を新たに実施します。また、ホールに設置されている各種舞台設備について、その操作を子どもたちに実際に体験してもらいワークショップを新たに実施し、子どもたちに表現のための舞台設備に興味を持ってもらう事業を実施します。



出演アーティストによる 楽器クリニックを実施します

学生やアマチュア実演家の技術向上を図り、長く文化芸術に携わる人材を育成するため、主催公演に合わせ、出演アーティストによる楽器クリニックを実施します。



事業の例



OZ-尾頭・山口佳祐／さらしなまりこ 子どものための美術創作ワークショップ



一流アーティストによる楽器クリニック



子どものための舞台技術体験ワークショップ



p0p0balloon パルーションショー＆パルーションワークショップ

III. 質の高いサービスの貸館事業

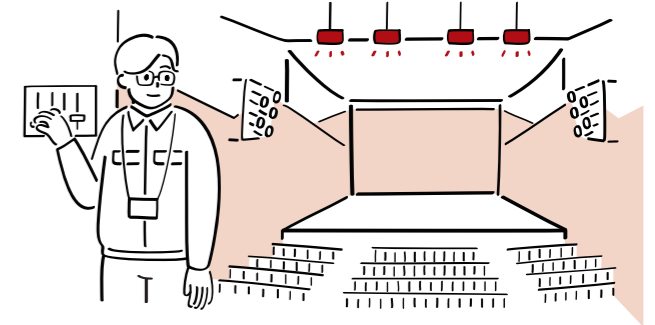
利用者によりそったサービス事業

評価の高い“高水準のサービス”を継続し、 利用しやすい施設を目指します

新型コロナウイルス禍でありながら、令和4年度は過去最高の稼働率を達成し、利用者に寄り添ったスタッフの質の高いサービスが、稼働率向上の要因の一つになったものと思われます。市民団体利用が多い劇場として、市民が使いやすい施設を目指し、高水準のサービスを継続することで、更なる満足度及び稼働率の向上に努めます。



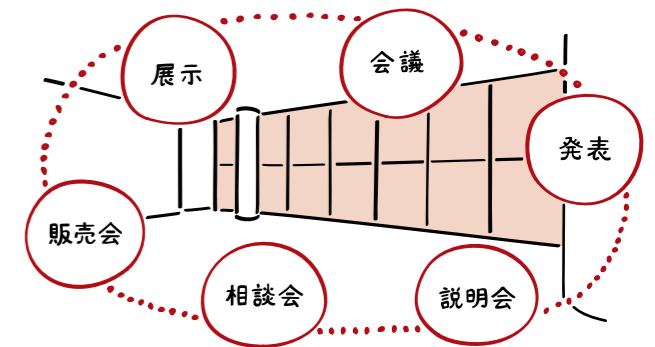
開場時の誘導は当館スタッフがお手伝いするなど、施設を貸し出すだけでなく、利用者によりそった対応を行っています。



市民団体利用時など大きな演出を伴わない催事では、当館スタッフが照明等のお手伝いをするなど、利用者の負担にならない対応を行っています。

展示サロンのPRや周知に努め、 新たな利用方法を含む利活用を促進します

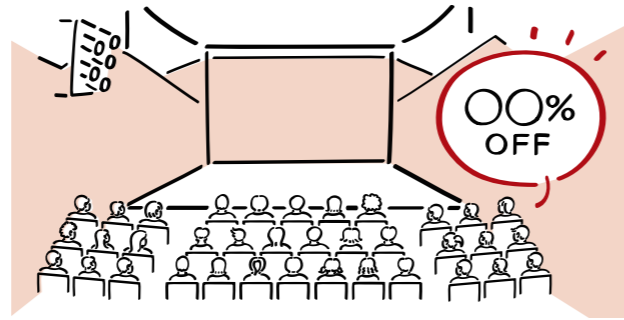
長野市役所1階という好立地にあり、作品の発表の場としての展示目的だけでなく、協賛パートナーや企業による展示・販売等の営利利用や、会議、説明会、相談会等多様な利用方法が可能なことから、広く周知を図り、稼働率の向上に努めます。



割引や Web 予約等のサービス事業

新たな割引を開始し、新規顧客やリピーターの獲得を目指します(ホール)

稼働率の低い時期(興行等閑散期)の稼働率向上や、大型催事の連続利用、継続的な利用を促すこと等を目的とした新たな割引方策を検討し、稼働率の向上に努めます。



Web 予約及び空き状況の公開ができるシステムを導入します

練習室の申込みを手軽に行えるよう、web から予約のできるシステムの導入や、空き状況の公開ができるよう進めます。



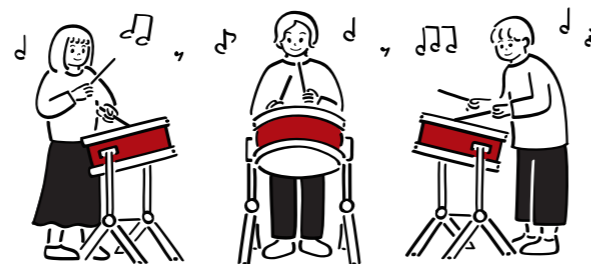
ステージ体感プランは見直しつつ継続し、ホール空き日の有効活用を図ります

開館5周年より開始してから、多くの人に参加いただき、現在はピアノプランを中心に参加が多くなっています。今後は、より多くの市民に参加いただけるよう、内容を見直しながら実施します。



練習室におけるさらなる稼働率の向上を目指します

各練習室は高い稼働率ですが、平日の昼間を中心に利用の少ない時間帯があります。そういった時間帯の有効活用に向けた取組を検討します。



観光地やイベントとの連携による交流事業

文化芸術により交流を促進する事業を実施します

善光寺をはじめとした、長野市が誇る観光地の活用や観光誘客イベントと連携し、公演などの実施を通して、文化芸術によるまちの賑わい・活性化といった交流を促進します。

■実施場所例

- ・ 善光寺本堂 (奉納コンサート)
- ・ nagano forest village
- ・ ハイランドホール飯綱
- ・ 松代城跡
- ・ セントラルスクエア
- ・ 戸隠高原



nagano forest village

■事業の例



観光地での特別ライブ



観光イベントへの出演

IV. 劇場とまちがつながる事業

まち☆ハブ事業



学生とアーティストの共同による、 まちの取材を通してつながる事業を実施します

アーティストと学生がナビゲーターとなり、まち(市内の企業・店舗)を訪ねることで新たなつながりを形成し、文化芸術に興味をもつ人口の増及び街の活性化を促します。その内容は広く長野市民に公開し、企業・店舗・学校の取組を新たな切り口から紹介するとともに、公共ホールの新たな取組として、長野市芸術館の認知度を高めます。



近隣飲食店の紹介・連携により、 公演前後のまちの賑わいを創出します

コンサートに来場した方が、その足で近隣飲食店で食事をする流れを生み出すことで、劇場からまちに賑わいを創出します。協力いただける近隣飲食店をまとめたMAPを作成し、公開するとともに、可能な範囲でチケット半券での割引等のサービスを依頼します。



SNSを積極的に活用し、情報発信に努めます

現在運用しているX(旧Twitter)、Facebook、YouTubeを活用し、取組の認知度を高めます。特にFacebookに掲載している公演レポートは1000人を超えるリーチがあることから、よりエンゲージ数を高める工夫を検討します。



コンサート等の開催をサポートする Meets ☆ Meets 活動(仮称)を実施します

これまでのノウハウを活かし、まち(市内の企業・店舗)が、コンサート等を開催しようと思ったときに相談できる窓口機能を新たに設けることで、コンサート等に対する潜在ニーズを支援し、芸術館が実施に向けてプロデュースを請け負います。



Messages

代表メッセージ



一般財団法人
長野市文化芸術振興財団
理事長

近藤 守

一般財団法人長野市文化芸術振興財団は、長野市芸術館の開館より指定管理者として、長野市の文化芸術振興に資する事業を実施してまいりました。この度、2024年度から2028年度まで、3期目となる指定管理を受託し、この5年間の取組における方針をまとめた「長野市芸術館第3期指定管理事業方針」を策定しました。

この事業方針は、文化芸術の充実により創造される長野市の5年後の将来像をイメージしながら、当館で働くすべての職員が一丸となり、具体的な取組をまとめたものです。文化性の高い公演や市民参加型事業などを実施しつつ、未来を担う子どもたちの文化芸術に触れる機会の創出に向けた新規プロジェクトを立ち上げ、重点的に取り組む所存です。

創造的で多様な文化芸術活動を促進し、豊かな文化に支えられた「文化力あふれるまち 長野市」の実現に寄与できるよう取り組んでまいりますので、当財団への変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、今後5年間の活動にどうかご期待ください。



長野市芸術館
館長

高橋 要

長野市芸術館は「文化芸術と出会い、ふれあい、創り出す 長野市民の文化芸術交流拠点」として2016年5月に開館し、長野市内外の皆さまに文化芸術を届けてまいりました。

2024年度からは第3期指定管理期間がスタートします。今後5年間の新たなテーマを「文化芸術でさらに心豊かで幸せなまちに～ここからつながる～」とし、「ホールの特長や市民ニーズに応じた鑑賞事業」「市民自らが主役となる参加型事業」「質の高いサービスの貸館事業」「劇場とまちがつながる事業」の4つの事業を柱に据えました。

こうした事業をとおして多様な個人が共感(empathy)し新たなつながりができるよう、そして長野市民のウェルビーイング(Well-being)の向上につながるよう、積極的に取り組んでまいります。

また、2026年には開館10周年を迎えます。これまで支えていただいた多くの皆さまとともに喜びを分かち合えるよう大型周年事業も企画してまいりますので、こちらもご期待ください。

キーワードは「ここからつながる」です。引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。



長野市芸術館
NAGANO CITY ARTS CENTER

<https://www.nagano-arts.or.jp/>



SNS 各種SNSでも情報を発信しています

